

## いじめの根絶を目指して

校長 石 山 輝 夫

全国各地で発生するいじめの報道が連日のように続いております。そして、いじめが原因で自ら命を絶つ小学生、中学生、高校生もいます。子どもを亡くした親御さんの気持ちを考えるともう言葉は出ません。人の命まで奪ういじめは絶対に許すことのできないものです。

いじめは相手の弱さにつけ込んで暴力を振るう、金銭を要求する、人の心を傷つける言葉を吐く、物を隠す、ズボンを降ろすなどの直接的な行為と「シカト」と言われる集団での無視などの間接的な行為で精神的にどんどん追い詰めていくものです。また、いじめは集団で特定の子どもの対象に長期的にわたって続けられるために、非常に陰湿な側面ももっています。また、仕返しを恐れてなかなか表面に出てきません。

いじめによって、いじめられた子どもは学校に居場所を失い、精神的に大きなショックを受けます。よく私たちは「そんなことで」といじめられた子どもの行動に疑問の声を投げかけることがあります。いじめにあってもそれを撥ね除ける強い抵抗力をもっていればいいのですが、多くの子どもは抵抗していく力をもち合わせてはおりません。また、集団と対峙することから異常な恐怖心をもつことになります。

私たちは憲法のもとで「人間一人一人の基本的な人権が尊重され、文化的に生きる権利を有する」と高く掲げてきました。いじめは人権尊重の社会にあって相受け入れないものです。だからこそ私たちは全力をあげていじめの根絶を図っていかねばならないのです。

子ども一人一人は違っていいのです。子どもも教師も親も地域もその違いを認め合っていかなければ学校は成り立っていきません。

子どもたちの「助けて」というSOSに早く気づき、周りの子どものやれること、大人としてやれることに今すぐに取り組んでいくことが必要です。また、命の重さを強く説いていくことも必要になります。

いじめがこれ以上広がらないように、そして起きないように保護者や地域の皆様に次のことをお願いいたします。

## 1 「いじめは絶対許されないものである」と大人が語り続けること

いじめにはいじめられる子ども、いじめる子ども、傍観する子どもの存在があります。時には「いじめられる側にも問題がある」という考えを取りがちになりますが、いじめについては「相手を精神的に追い詰めるいじめる側が悪い」という視点に立って解決策を取ることが必要だと思います。

また、傍観者を出さないためにもモラルの高い子どもを育てていかなければならないと思います。そのためには学校での指導、親子での話し合い、地域での話し合いが益々重要になると思います。

今後、学校では子ども同士がよりよい人間関係を作ることができるように重点的に取り組んでいくことにしております。また教師には子どもたちの悩みを真摯に受け止められるようになることが求められていると思います。教師としての人間力や指導力をなお一層高める努力をし、子どもたちとの信頼関係をより強めていくことにしております。

## 2 よりよい言語環境をつくること

学舎としての学校では美しい日本語を話すことが重要です。子どもたちは相手と

うまくいかなくなると「死ね」「消えろ」「ウザイ」などの言葉を平気で使います。これらを正していくのが教育作用です。言葉による人権侵害をなくす努力が大切となります。学校としても、子どもたちに近づくということで教師が不適切な表現を使うことはあってはならないと考えています。もちろん子どもたちの会話にも相手の心を傷つける言葉はあってはならないものです。みんなでもっと使う言葉に気を遣っていかなければならないと思います。

### 3 子どもたちを取り巻く環境を見直すこと

子どもたちを取り巻く環境は必ずしも望ましいものばかりとは言えません。テレビ、雑誌等のマスメディアで日々流される情報や娯楽番組の中には「おもしろければよい」とし、必ずしも人権尊重の精神にたった内容のものばかりではありません。また有害凶書の及ぼす影響等も懸念されます。更には出会い系サイトで子どもたちが被害者になる事件も起きています。学校、保護者、地域が連携して子どもたちを取り巻く環境が少しでも望ましい方向に進むように取り組む必要を強く感じています。

いじめは無くすことはできます。相手に対する小さな思いやりがあればいいのです。これは誰にでもできることです。そんな気持ちが大住の町にも広がってほしいと思います。いじめ問題では学校、家庭、地域の教育力が問われているようにも思います。みんなの力でいじめの根絶に取り組んでいきたいものです。

### ◎ 第2回みんなの登校日を実施して

みんなの登校日では普段の子どもたちの学習する様子や生活する姿を参観していただきました。天候的には恵まれませんでしたが、多くの保護者や地域の皆様に足を運んでいただきありがとうございました。子どもたちのがんばっている様子や教師の様々な工夫や取り組みを見ていただけたのではないのでしょうか。PTAの役員の皆様の協力で無事終えることができました。この後アンケート等も参考にしながら次年度以降のみんなの登校日の持ち方を考えていきたいと思っています。

### ◎ たかが傘されど傘

校報第6号で傘一つの思いやりを述べました。子どもたちはそれを意識して手を濡らしながらも傘を紐で閉じ、他の人が入れやすいようにしてくれます。これからは傘の必要な毎日になります。今一度傘の点検をお願いいたします。とくに骨の折れている傘は危険です。

## おめでとう がんばったね!

- ☆全国少年フェンシング団体選手権大会  
第1位 5年 小笠原 和
- ☆秋田市ミニバスケットボール交歓大会  
第3位 大住男子ミニバススポ少
- ☆秋田市西地区少年剣道大会  
第3位 大住剣道スポ少
- ☆鳥海弘毅顕彰剣道大会  
第3位 大住剣道スポ少
- ☆秋田市民スポーツ祭バレーボール大会  
優勝 大住バレーボールスポ少
- ☆秋田市読書感想文コンクール  
優秀賞 6年 岡部堯文  
優秀賞 4年 児玉佳乃子  
優良賞 3年 岡部真由子

- ☆NHK杯全県選抜水泳競技大会  
第2位(好100Mバタフライ) 5年 畠山聖樹  
第3位(好50Mバタフライ) 5年 畠山聖樹
- ☆菅原杯・秋田県ジュニア新体操選手権大会  
第1位(女子団体) 6年 中島結香  
第1位(女子団体) 6年 圓山静蘭  
第3位(女子個人) 6年 遠藤望由  
第3位(女子フープ) 6年 遠藤望由  
第3位(女子ロープ) 6年 遠藤望由  
第3位(女子徒手) 1年 圓山愛鈴
- ☆東北ジュニア新体操選手権大会  
第6位(女子個人) 6年 遠藤望由
- ☆秋田県児童・生徒理科研究発表大会  
齋藤憲三賞 6年 渡部 凜